

湘南

野鳥図鑑

水辺の探鳥マップ

はじめに

湘南の自然を取り戻そう

～水辺の探鳥マップと湘南野鳥図鑑～

神奈川県の川の環境は、水質データの報告などを見ますと年々少しずつではありますが、改善されております。これは、川を愛する人々（個人、団体、企業、行政）の川をきれいにしようとの取り組みによって、その効果が少しずつあらわれてきたものと思います。

相模川、金目川、引地川、境川、葛川などの湘南地域の川においても少しずつではありますが水質もよくなり、川の環境も整い、相模川の支流でも鮎の遡上が見られたり、いろいろな野鳥も観察できるようになりました。

「桂川・相模川流域協議会 相模川湘南地域協議会」では、よりいっそう川の環境保全、改善に取り組むために、川に親しむ手段として、湘南地域の川と野鳥をテーマに『水辺の探鳥マップ』と『湘南野鳥図鑑』をあわせ持つ本冊子を作成しましたのでご利用下さい。

図鑑の見方

野鳥の観察を始める人のための「湘南野鳥図鑑」です。どこへ行けば、どのような野鳥に出会えるか、観察できるかと気になるところです。実は鳥たちは、町なか、公園、田畑、川原、丘陵、山地、海上、干潟といった環境の中ですみ分けをしています。ところが野鳥の世界では自由に飛び交うことができますのでその行動の範囲は広く、その境界はありません。ぜひ、いろいろなところに出かけてみてください。ここでは身近な鳥を中心に、季節の鳥、一部の地域・場所の野鳥、数少ない野鳥などを写真で紹介します。鳥の名前、科名、大きさ（cm）、重さ（g）、見られる季節、すんでいる場所、食べ物、鳴き声などの特徴を書きました。

参考文献

20世紀神奈川の野鳥 2002 日本野鳥の会神奈川支部
日本鳥類保護連盟監修 野鳥の歳時記1～8 1984-85 小学館
高野伸二編 日本の野鳥 1985 山と溪谷社

用語説明

留鳥……一年じゅう見られる鳥

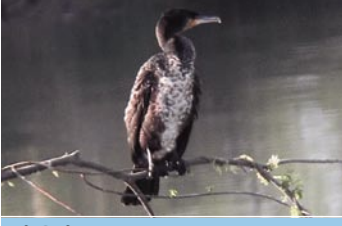
夏鳥……湘南地域で繁殖し、南の国で越冬する鳥

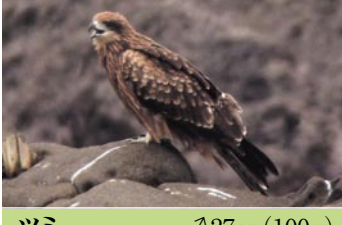
冬鳥……北の国で繁殖し、湘南地域で越冬する鳥

旅鳥……湘南地域を春と秋に通る鳥

写真提供 氏名敬称略

荒川計三 金子典芳 小松 洋 小室明彦 竹沢 正
西ヶ谷修一

カイツブリ	25cm	200g	カイツブリ科
	留鳥。池や川などの水辺で観察される。秋冬に観察例が多い。枯れ草などで浮巣を作る。足指のひれを使って、水をかいて潜り、魚や水生昆虫などを捕える。繁殖期にケレケレケレ…と高い声で鳴く。		
カンムリカイツブリ	56cm	1,140g	カイツブリ科
	冬鳥。11月～3月頃まで観察される。大型のカイツブリで首が長い。おもに沿岸海上や相模川の河口など下流で見られるが、内陸部の貯水池や湖にもいる。魚、水生昆虫を食べる。ほとんど鳴かない。		
カワウ	81cm	2,400g	ウ科
	留鳥。おもに内湾や川にすみ、潜水をくり返して魚を捕る。朝夕に編隊飛行し、内陸部の林や電線にとまって休む。顔の黄色い裸出部がウミウよりも広く口角部分は丸みがある。グルルーンなどと鳴く。		
ウミウ	83cm	2,600g	ウ科
	冬鳥。おもに海岸の磯で観察される。夜はなかと断崖などで眠る。海に潜って魚を捕る。カワウによく似るが、顔の黄色い裸出部が口角部分は三角形に尖っている。カワウと同じような声で鳴く。		
アオサギ	93cm	1,400g	サギ科
	留鳥。かつては冬鳥だったが、最近では繁殖が確認された。川、干潟、田などで観察される。魚、カエルを待ち伏せしてとらえる。一番大きなサギ。マツ、ケヤキなどに巣を作る。グワッなどと鳴く。		
ダイサギ	90cm	950g	サギ科
	周年観察される。川、干潟、池、水田で生活し、雑木林などにサギ山と呼ばれるコロニー（集団繁殖地）をつくる。待ち伏せ採食が多い。小魚、蛙、エビなどの水生小動物を捕える。グアアと鳴く。		
チュウサギ	68cm	540g	サギ科
	夏鳥。大きな川の流域の水田、休耕田で秋季に多く観察される。夏羽はくちばしは黒く目先は黄色い。冬羽ではくちばしは黄色く先端が黒いことが多い。昆虫、両生類を食べる。グアアアなどと鳴く。		
アマサギ	50cm	370g	サギ科
	夏鳥。春から夏に大きな川の流域の水田、湿地で観察される。昆虫、カエルを捕る。耕耘機の後について耕された田畑から飛び出す獲物を捕らえる。グワアアと鳴く。繁殖期以外はほとんど鳴かない。		

コサギ	60cm	420g	サギ科
	留鳥。川、湿地、水田で片足の先を震わせて小魚などの水生動物を追出して捕える。小型のサギで足指が黄色。グァァ グェと鳴く。コロニーの糞害や騒音が嫌われ林が伐採されて数が減っている。		
ササゴイ	52cm	300g	サギ科
	夏鳥。大きな川岸、中州で小魚を待って、素早く捕まえる。夕方から夜間、昼間も採食をよく行う。ゴイサギに似るが目と足は黄色。キュウと鋭い声で鳴く。糞害などで木が切られ、営巣場所が激減。		
ゴイサギ	57cm	600g	サギ科
	留鳥。川岸、水田、林などで観察される。川で魚やカエルなどを捕る。昼は川岸や林で休む。薄暗くなった頃、グァーと大きな鳴き声で上空を飛ぶので「夜鳥」とも呼ばれる。夜間もよく採食する。		
ミサゴ	♂55cm	♀69cm(2,200g)	タカ科
	県内では秋冬の頃に大きな川、河口、海岸などで観察される。急降下して水に突っ込み爪で大きなコイ科の魚を捕え鉄塔や電線で食べる。ウキョ キョッ キョッと鳴く。定期的な営巣地は少ない。(マップ面でも紹介)		
トビ	♂59cm	♀69cm(1,100g)	タカ科
	留鳥。丘陵地から海岸まで普通に観察される。上空を舞いながら獲物を探す。小動物・魚の死骸のほか何でも食べる雑食性。餌付けされた個体が弁当を奪った事件もある。ピーヒョロヒョロ…と鳴く。		
ツミ	♂27cm(100g)	♀30cm(140g)	タカ科
	留鳥。数は少ない。小形のタカで山地や平野で観察され、市街地周辺でも見られるが、継続的な繁殖は稀。林内をさっと飛び、小鳥類、昆虫などをねらって捕える。ピーピー…と尻下がりに鳴く。		
オオタカ	♂50cm	♀56cm(950g)	タカ科
	留鳥。丘陵地のスギ林、雑木林で観察される。小鳥類を捕える。カッカッ…と鳴く。よくカラスに追われている。繁殖記録は増えているが、森林伐採や営巣地への人の立入で生息環境が悪化。		
サシバ	♂47cm	♀51cm	タカ科
	夏鳥。丘陵の畑や草地の空に舞う。秋の渡りには群れでの移動が見られる。蛙、蛇、昆虫を食べる。ピッ、クイーと鳴く。繁殖に最適な谷戸や周辺の林が開発され急速に数が減り絶滅危惧種とされる。		

ノスリ ♂52cm(830g) ♀57cm(1,000g) タカ科



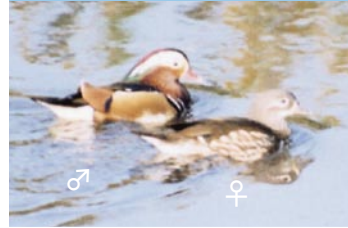
秋冬に丘陵の林でよく観察される。平野や水辺で食べ物を探す。ホバリング(空中停飛)し獲物を発見、急降下する。鼠、蛙、トカゲ、蛇を捕える。営巣する大木の伐採や越冬地の草地環境消失が問題。

チョウゲンボウ ♂33cm ♀38cm(300g) ハヤブサ科



年間を通して観察されるが冬の記録が多い。丘陵地や農耕地で昆虫、小鳥、ネズミなどを捕る。ホバリングして地上の獲物をとらえる。都市高層建造物に営巣する例が増えている。キイキイと鳴く。

オシドリ ♂47cm(550g) ♀40cm カモ科



冬鳥。山地の森の中の大きな湖や溪流で観察される。平地では秋の渡りの頃に開けた川で見られることが多い。ドングリや草の種子を好む。♂はクエツなどと高い声、♀はクアツという低い声で鳴く。

ヒドリガモ ♂53cm(770g) ♀43cm(720g) カモ科



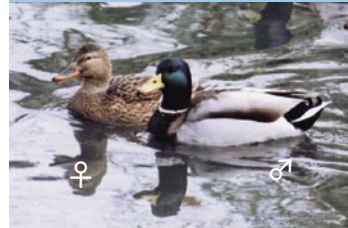
冬鳥。河口や大河に群れで泳いでいる。内湾のアオサなどの海藻を好み、草の種子、水草も。陸上では草をむしって食べる。♂はビューウと鋭い声で鳴く。♀はグワーグワーという濁った声で鳴く。

コガモ ♂41cm(390g) ♀34cm(330g) カモ科



冬鳥。川や湿地に他のカモより早く9月から渡来する。水苔や草の種子などを食べる。♀の周りを♂たちが輪を描くように泳ぐ求愛行動をとる。♂はピリッピリッとホイッスルのような声で鳴く。

マガモ ♂61cm(1,200g) ♀53cm(1,000g) カモ科



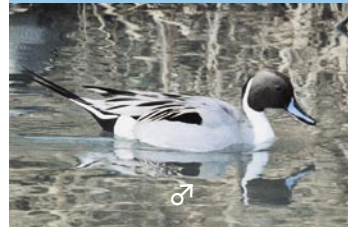
冬鳥。各地の川や湿地などで、草の種子などを食べる。♂はグエグエグエと尻上がりの大きな声で鳴く。繁殖は未確認。飼育種のアヒルやアイガモが交雑して似た姿になるので識別には注意。

カルガモ ♂63cm(1,130g) ♀53cm(1,000g) カモ科



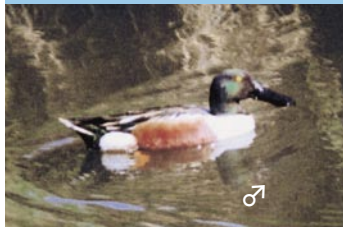
留鳥。川や湿地などで普通に観察される。水辺の草むらの営巣地から川の生活地へと一列に並んで移動するカルガモ親子の行列で知られている。穀類、草の種子を好んで食べる。グエツ グエツと鳴く。

オナガガモ ♂75cm(1,100g) ♀53cm(700g) カモ科



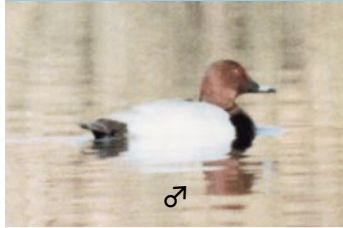
冬鳥。♂の尾が他のカモより長い。干潟や大きな川の下流で観察される。水草の茎や葉を食べる。♂はシーシーン シシーンというきしるような声やコガモの♂に似た声などいろいろな声で鳴く。

ハシビロガモ ♂51cm ♀44cm カモ科



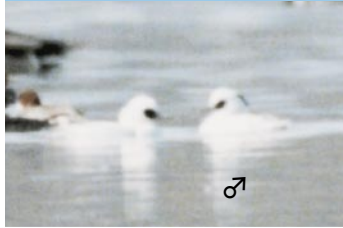
冬鳥。都市公園の池や川の下流、河口などで観察される。へら形の大きなくちばしで水面の細かい藻やプランクトンをこしとるようにして食べる。水のきれいな大きな湖には少ない。♂はクエツクエツと鳴く。

ホシハジロ ♂48cm(900g) ♀43cm(850g) カモ科



冬鳥。海ガモのなかま。本県としては増えているが、小さい川では見る機会は少ない。川、河口、都市公園の池で観察される。勢いよく水中に潜り水草をくわえて出てきて食べる。ほとんど鳴かない。

ミコアイサ ♂44cm(720g) ♀38cm カモ科



冬鳥。相模川に渡って来るが、不定期で見る機会は少ない。♂はからだは白く目の周りが黒いのでパンダガモの愛称がある。湖沼、河川、内湾などで小魚、甲殻類を捕って食べる。キッキキツと鳴く。

コジュケイ 27cm キジ科



留鳥。丘陵地の下やぶの茂った雑木林などの地上で生活する。枝に登って鳴いたり採食することもある。主食はほとんどが植物質。ビツグウィ ビツグウィを繰り返す。ときにクイーと大声で鳴く。

キジ ♂81cm(1,110g) ♀58cm(830g) キジ科



留鳥。日本の国鳥であると同時に代表的な狩猟鳥。本県でも狩猟団体が放鳥している。草原性の鳥で丘陵地の林縁、農耕地で地上で採食する。穀類、草の種子などを食べる。♂はケンケンと鳴く。

クイナ 29cm 135g クイナ科



冬鳥。ヨシなどの生えた川、水辺や湿地の水際の茂みで暮らすことが多い。ミズ、ザリガニ、カワナナなどを食べる。河川整備により好適な生息環境が減っている。繁殖期にはクククなどと鳴く。

バン 32cm 280g クイナ科



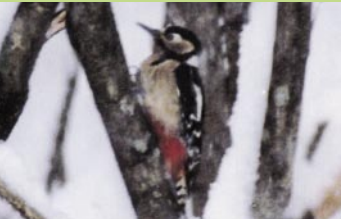
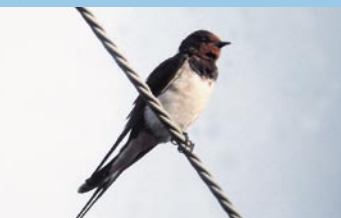
留鳥。冬季の観察例も増えている。川、水田などにすみ、尾を上下にふりながら泳ぐ。クイナほど警戒心はない。水草、水生小動物を食べる。水辺の草むらなどに営巣する。クルルーツなどと鳴く。

オオバン 39cm 730g クイナ科



冬鳥。秋から冬にかけて相模川下流付近で群が観察される。水辺で逆立ちをして藻や水草、水生昆虫を捕って食べる。バンと異なり歩くことは得意なようで泳ぐ姿がよく見られる。キュイと鳴く。

ハマシギ	21cm 60g	シギ科
	旅鳥。海岸や干潟、川に渡来し、ゴカイや小形の甲殻類などを捕る。くちばしは黒く、少し下側に曲がる。200羽以上の群れで上空を飛び回りマスゲームのような飛行をする。ジュリージュリーと鳴く。	
ウミネコ	46cm 550g	カモメ科
	冬鳥。夏にいるのは北の繁殖地に行かない若鳥である。海上の生け簀や干潟で見られる。ユリカモメやセグロカモメに比べると内陸まで川を遡ることは少ない。魚のあらなども食べる。ミャーオと鳴く。	
ユリカモメ	40cm 310g	カモメ科
	冬鳥。主に10月～4月、海岸、干潟や河口、川で観察される。とくに冬季には川をよく遡り内陸部でも見られる。夕方には川を下り海で集団でねぐらをとるものもいる。ギイー、ギューイなどと鳴く。	
アジサシ	35cm 130g	カモメ科
	旅鳥。春の渡りは5月中旬、秋は9月上中旬を中心に観察される。海上、河口、干潟で、羽ばたきながら小魚を探し、見つけると空中でねらいをつけてダイビングして捕まえる。ギューッ、ギリッと鳴く。	
コアジサシ	28cm 61g	カモメ科
	夏鳥。ダイビングして小魚を捕る。人や車の立入、カラスによる雛の捕食、中州の草の繁茂などにより、砂浜や河川敷などの繁殖地が減少したため絶滅危惧種とされている。キリッ キリッと鳴く。	
キジバト	33cm 250g	ハト科
	留鳥。丘陵地から平地、市街地、海岸など全域で観察される。地面を歩いて草の実、穀類を食べる。公園や街路の樹木で営巣する例も増え、人慣れた個体も近年増えてきた。デッデポーポーと鳴く。	
アオバト	33cm 245g	ハト科
	夏鳥。春から秋に海岸、丘陵地、山地の限られた地域で見られ、木の実を食べ、磯に下りて海水を飲む。冬はドングリを主に食べていることが越冬地で調査されている。アオーアオーと鳴く。(マップ面でも紹介)	
アオバズク	29cm 190g	フクロウ科
	夏鳥。低い山地、市街地の社寺などの大木に営巣。夕方から活動し、主にカブトムシや大型のガなどを捕る。ホッホー ホッホーと繰り返し鳴く。営巣木附近の林の減少や撮影者による影響も心配。	

フクロウ	50cm 600g	フクロウ科
	留鳥。山地、平地の社寺などの大木に営巣する。主にネズミなどの小動物を捕る。ゴロスケホッホと太い声で鳴く。営巣する樹洞がある老木の減少、採食地である農耕地や草地が分断・減少している。	
ヤマセミ	37cm 195g	カワセミ科
	留鳥。山地の溪流や湖畔で観察される。川魚を捕る。魚を枝や石に打ち付け頭から呑み込む。キャラッ キャラッと鳴く。砂防ダムや魚が遡上できない堰が増え、生息環境が悪化している。	
カワセミ	17cm 30g	カワセミ科
	留鳥。川の水辺中心に生活する。川面に突き出た枝からじつと水面を見つめ、空中から飛び込み小魚などを捕る。チー チーと鳴きながら飛ぶ。コンクリート護岸が増え、営巣できる土手が減った。	
コゲラ	15cm 20g	キツツキ科
	留鳥。丘陵地から市街地の公園まで広く分布。枯れ木に穴を開けて営巣。昆虫やその幼虫を捕る。トルルルと聞こえる低く短いドラミング(木をくちばしで連続して叩く行為)をする。ギイーギイーと鳴く。	
アカゲラ	24cm 75g	キツツキ科
	留鳥。都市公園から丘陵地、山地で観察されるが、繁殖はほとんど山地で。翼の白斑は幹を登るときには逆八の字に見える。枯木の中の昆虫類を捕る。コゲラより長目のドラミングをする。ケツ ケツと鳴く。	
アオゲラ	29cm 125g	キツツキ科
	留鳥。都市公園の樹林、丘陵地、山地で観察される。枯木の中の昆虫類を捕る。木の実も食べることも。大きな音でドラミングをする。ケケツ、ケレケレのほか、よく通る声でビョー ビョーと鳴く。	
ヒバリ	17cm 33g	ヒバリ科
	留鳥。空高くピーチュクピーチュク チューチューピールルルとさえずり、2～7月に川原、畑地でよく観察される。昆虫、ミズを捕る。冬に河原を歩くとピルッと鳴いて飛び立つ。生息地の畑が減少。	
ツバメ	17cm 19g	ツバメ科
	夏鳥。3月～10月頃まで観察される。3～8月に市街地で民家や商店、駅舎などに巣を作る。空中の虫を捕る。濁った声を混ぜて早口でさえずる。軒が広い家が減り、営巣場所が減少している。	

コシアカツバメ 18.5cm 22g ツバメ科



夏鳥。ツバメより遅く4月頃から渡来。天井部に徳利を半分に割って付けたような形の巣を作る。現在は中層住宅の階段室での営巣が多い。市街地や川などで空中の虫を捕る。ジュリリ ジュリリと鳴く。

イワツバメ 14.5cm 18g ツバメ科



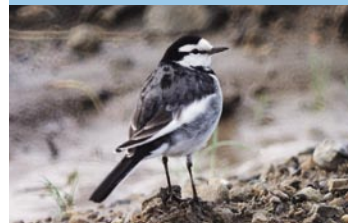
夏鳥。ツバメとほぼ同時期に渡来。橋桁や建物の壁、魚市場の天井などに集団営巣する。分布は拡大傾向にある。市街地、平地、川周辺で上空の虫を捕まえて食べる。ジュリジュリ、ピリュピリュと鳴く。

キセキレイ 20cm 21.5g セキレイ科



留鳥。周年、小川や溪流で観察されるが、秋冬の観察例が多い。屋根や橋桁のすきまに営巣する。水生昆虫類をフライキャッチする。鏡に映った姿を攻撃することもある。チチン チチンと鳴きながら飛ぶ。

ハクセキレイ 20.5cm 30g セキレイ科



かつては冬鳥だったが、70年代から繁殖事例が増え、現在は留鳥。川、農耕地、市街地などでよく観察される。秋冬期に橋桁や街路樹に集団でねぐらをとる。チュチュン チュチュンと鳴きながら飛ぶ。

セグロセキレイ 21cm 31g セキレイ科



留鳥。日本列島の固有種。川の附近で観察される。岸辺で水生の昆虫類を食べる。石垣の隙間や橋桁で営巣する。人家での営巣記録はない。ハクセキレイより観察例は少ない。ジジッ ジジッと鳴く。

ビンズイ 15.5cm 22.5g セキレイ科



繁殖期は丹沢や箱根の山地に分布し、秋冬は海岸や丘陵のマツ林など明るい林で観察される。地上で草の種子をついばむ。タヒバリに姿が良く似ているが、追われると樹上に逃げるのが本種の特長。

タヒバリ 15.5cm 22.5g セキレイ科



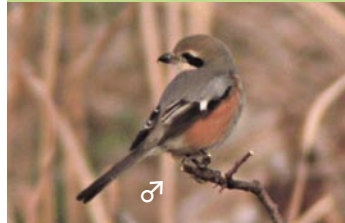
冬鳥。9月下旬頃に川原の芝生やグラウンド、田畑に多く渡来し5月上旬まで観察例がある。11月から3月頃までがふつうに見られる。昆虫などを捕って食べる。ピッピッピと聞こえる細い声で鳴く。

ヒヨドリ 27cm 86g ヒヨドリ科



周年観察されるが、留鳥性の個体だけでなく、旅鳥として大群で通過する個体や、冬鳥として渡来するものもあると考えられる。昆虫、木の実を食べる。群れで畑で葉菜を食べ荒らす困った例もある。

モズ 20cm 38g モズ科



留鳥。丘陵地から都市公園まで広く観察される。昆虫、小動物を捕る。獲物を失った枝などに突き刺すはやにえはモズの仕業。春には小声でほかの鳥の鳴きまねをするが、秋にはキチキチ…と大声で鳴く。

キレンジャク 19.5cm 75g レンジャク科



本県では2月上旬～4月上旬にかけて観察される。年による飛来数の増減が大きい。ヤドリギやキツタ・ピラカンサなどの漿果を好む。これらがあるところで局地的に観察される。チリリーと鳴く。

ヒレンジャク 17.5cm 50g レンジャク科



本県では2月上旬～4月上旬にかけて観察される。年による飛来数の増減が大きい。キレンジャクと同様な環境で見られる。尾の先端に赤色帯がある点と腹中央が黄みがる点がキレンジャクと違う。

カワガラス 22cm 80g カワガラス科



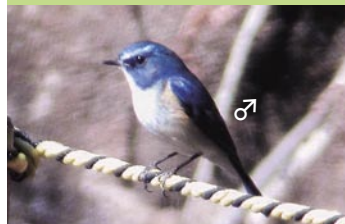
留鳥。本県では箱根、丹沢、県北の山地の溪流にすみ、水中の昆虫やその幼虫を食べる。流れの急な水底を歩いて食べ物を探ることができる。ビィッ ビィッと鳴きながら飛び岩づたいに歩いたりする。

ミソサザイ 10.5cm 9g ミソサザイ科



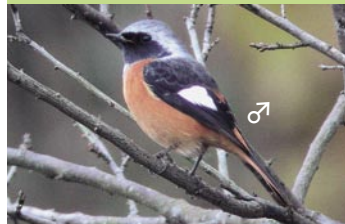
留鳥。箱根・丹沢山地周辺では周年観察されるが、湘南、県央などの平野部では12月～3月の越冬期のみ見られる。沢沿いの岩かげなどに営巣。溪流の音に負けない声でさえずりを続ける。

ルリビタキ 14.5cm 16g ヒタキ科



丹沢山地で繁殖が確認されているが記録は少ない。冬は山地、丘陵、平野部で観察される。昆虫、クモを捕る。キョロキョロキョロリと鳴く。冬は林内の暗い所を好むが、宅地造成などで適地が減っている。

ジョウビタキ 14.5cm 16.5g ヒタキ科



冬鳥。10月から4月上旬まで観察される。10月下旬から11月上旬は冬のなわばり争いが活発なのでよく目立つ。丘陵地から庭までほとんどの地域に分布している。虫や木の実を食べ、ヒッヒッと鳴く。

イソヒヨドリ 23cm 75g ヒタキ科



留鳥。海岸部を中心に分布するが、大きな川に沿ってかなり内陸でも観察される。市街地の建物でも営巣。虫、稚魚や木の実、人の食べ残しなども食べる雑食性。オオルリにも似たよい声でさえずる。

トラツグミ 29.5cm 140g ヒタキ科



周年山などで観察されるが、冬には丘陵地から平地、公園などに降りてくる。うす暗い林の中で落ち葉をひっくり返して昆虫類、ミミズなどを食べる。林の中でヒューヒューという細い声で鳴く。

アカハラ 23.5cm 75g ヒタキ科



県西部の山地で繁殖観察例があるが数は少ない。平野部でも4月下旬から5月上旬にキョロン キョロンチーと鳴く。冬は丘陵地、公園などの林床で落葉をのけて虫やミミズを捕り、木の実も食べる。

シロハラ 24.5cm 78g ヒタキ科



冬鳥。山地よりも雑木林や緑地のある公園で観察される。林床に降りて落ち葉の下に昆虫類などを食べ、ハゼノキ、ヌルデなどの木の実も食べる。ツリー、シー、キョツ、クワツなどの地鳴きをする。

ツグミ 24.5cm 78.5g ヒタキ科



冬鳥。丘陵地から平地、公園、田畑、庭など全域で観察される。ヘクソカズラ、ピラカンサ、カキ、リンゴ、エノキ、クロガネモチなどいろいろな木の実やミミズや昆虫類も食べる。クエックエツと鳴く。

ウグイス ♂16cm (17.5g) ♀13cm ヒタキ科



早春から市街地でもさえずり始め、山地、平地のやぶに多い。冬は平地に漂行する。昆虫、木の実を食べる。さえずりはホーホケキョ、外敵が近づくとケッキョケキョ…連続して鳴く(谷渡り)。地鳴きはチャツチャツ(笹鳴き)。

オオヨシキリ 18.5cm 31g ヒタキ科



夏鳥。川や湿地のヨシ原が減り、鳴き声を聞くことが少なくなった。ヨシの茎をまとめてお椀型の巣を作る。昆虫類やクモなどを捕える。ギョギョシギョギョシと激しく鳴く。最盛期は夜もさえずる。

センダイムシクイ 12.5cm 10.5g ヒタキ科



夏鳥。繁殖期には丘陵地から山地まで観察される。渡り時には平地の林や都市公園などでも見られる。昆虫を捕る。チョチョビーと尻上がりに鳴く。繁殖地の森が伐採されて、近年は減っている。

セッカ 12.5cm 10g ヒタキ科



繁殖期には水辺のヨシ原、草原などで観察される。冬は南へ移動するものもいるが、草むらの中で観察しにくい。昆虫などを捕る。上昇でヒツヒツ…、下降でチャチャツ、チャチャツ…と鳴き波状飛行。

キビタキ 13.5cm 14g ヒタキ科



夏鳥。山地から丘陵地の落葉樹林に渡来。渡り途中、平地の林や公園で見られる。虫を空中で捕えて元の枝に戻って食べる。オーシーツクツクと間にはさんでポッピーリ・ピロロピロロと早口でさえずる。

オオルリ 16.5cm 24g ヒタキ科



夏鳥。山地から丘陵地の沢沿いの林で繁殖。春秋の渡り時には平地の林や市街地公園でも観察される。枝からフライキャッチで昆虫類を捕る。ピールーリー ポーピリービピの最後に、ギギツと鳴く。

エナガ 13.5cm 7.5g エナガ科



留鳥。丘陵地や山地の森林で繁殖。本県では都市部をのぞき全域に分布している。尾の長さだけで6.8 cm～8.4 cmになるので、身体は日本の鳥では最小の部類。昆虫を捕る。ジュリジュリと鳴く。

シジウカラ 14.5cm 16g シジウカラ科



留鳥。丘陵地から平地、市街地、庭で観察される。昆虫類、草の種子を食べる。樹洞に営巣するが巣箱も利用する。ツツピー ツツピーなどとさえずり、チッチ、ジュクジュクという濁った声も出す。

ヤマガラ 14cm 17g シジウカラ科



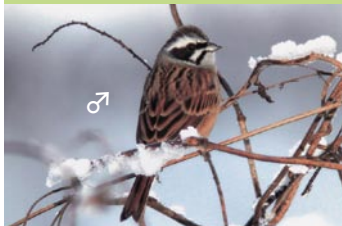
留鳥。丘陵地の高くよく繁った常緑広葉樹を特に好む。主に林の上層で枝から枝へと移動するのが観察される。虫や木の実を食べる。ツーツーピー ツーツーピーというような声でゆったりとさえずる。

メジロ 11.5cm 11g メジロ科



留鳥。丘陵地から市街地まで広く観察される。常緑広葉樹林を好む。昆虫類やその幼虫や卵、果実や花蜜を好む。チーチーチュルチュル チーチュルチュルとさえずる。地鳴きはチー、警戒時はキリキリ…と鳴く。

ホオジロ 16.5cm 23g ホオジロ科



留鳥。林、農耕地、河原など開けたところで観察される。主に草の種子を食べる。繁殖期には昆虫やその幼虫を捕る。梢などでチョッピーチリーチョとさえずる。地鳴きはチチッ チチツと2音ずつ続ける。

ホオアカ 16cm 23g ホオジロ科



冬鳥。川沿いの草地、農耕地などに渡来するが数は少ない。ほとんどは1～2羽で観察される。昆虫類、草の種子をついばむ。ホオジロに似るが短く低い声でさえずる。地鳴きはチッ、チツと区切る小声。

カシラダカ	15cm 21g	ホオジロ科
	冬鳥。10月中旬頃から4月まで丘陵地の林や田畑の草地、川原などで観察される。草の種子をついばむ。春先にヒバリに似た声でピーチュクピーチュクビルビルチーチとさえずる。地鳴きはホオアカに似た声。	
アオジ	15.5cm 21g	ホオジロ科
	冬鳥。10月下旬に渡来し5月上旬には渡去。丘陵地から平地、公園の植え込みなどで観察される。地上で草の種子をついばむ。地鳴きはチツチツと鳴き、春先、チュッチンチュルリチーールル…とさえずる。	
オオジュリン	15.5cm 22g	ホオジロ科
	冬鳥。11月上旬に渡来し、渡去は4月中旬と早い。相模川などの大きな河川のヨシ原にやってきてヨシの葉のもとに昆虫類の幼虫、草の種子をとってついでついで。チューインと聞こえる地鳴が特長。	
アトリ	16cm 24g	アトリ科
	冬鳥。年により渡来数の差が大きい。ブナなどの豊凶によるようだ。丘陵地、農耕地、公園で観察される。地面に降りたり枝にぶら下がったりして種子、木の実をついばむ。地鳴きはキョツキョツ。	
カワラヒワ	13.5cm 20g	アトリ科
	留鳥。繁殖活動は2月下旬から9月中旬と長い。丘陵地から平地、公園、庭で観察される。秋冬は群をつくってすみ、ヒマワリなど種子を好む。キリコロロ キリコロロ、ピーンなど複雑なさえずり。	
マヒワ	12.5cm 13.5g	アトリ科
	冬鳥。渡来数が餌である植物の実の豊凶に影響されるようだ。山地やその周辺の水田、川、空き地などで観察される。群で木の枝先にぶら下がって実を食べる。チューイン、チューインとよく鳴き交わす。	
ウソ	15.5cm 25g	アトリ科
	冬鳥。山地から丘陵地に来るが数は少ない。秋の渡来当初は山間部での記録が多いが、春が訪れると低地に移る。季節に従い植物の種子や冬芽、花芽、新芽と食べる。フィーフィーと口笛のような声。	
シメ	18.5cm 50g	アトリ科
	冬鳥。10月下旬から5月上旬まで観察される。山地には少なく、丘陵地から市街地までふつうに見られる。渡りの前は数十羽の群れも見られる。昆虫や幼虫、木の実や草の種子を食べる。キチツと鳴く。	

イカル	23cm 72g	アトリ科
	留鳥。山地や丘陵地で観察されるが、繁殖期は山地に多く、観察例数の割には繁殖観察例が少ない。冬は固い木の実を割って食べ、早春には花芽や花穂を食べる。キーコーキーと冬にもよくさえずる。	
スズメ	14cm 21g	ハタオリドリ科
	留鳥。全域で観察される典型的な人里の鳥である。3月から8月まで建物の隙間に営巣する。主に草の種子を食べるが、人のいろいろな食べ残しも食べる。ヒナには幼虫を与える。チュツチュなど鳴く。	
コムクドリ	19cm 53g	ムクドリ科
	旅鳥。春秋の渡りの頃に川や丘陵地などの林で観察される。ムクドリの群に混じって生活していることもある。数百羽の集団ねぐらの観察例もある。木の実、昆虫などを食べる。キュル、キュルと鳴く。	
ムクドリ	24cm 85g	ムクドリ科
	留鳥。丘陵地、農耕地、市街地の緑地などで観察される。建物の隙間に巣を作る。繁殖が終わると大群で行動し始め、数千羽のねぐらができる。昆虫の幼虫、木の実を食べる。リヤーリヤーなど鳴く。	
カケス	33cm 135g	カラス科
	丹沢、箱根の山地で繁殖し、秋から冬には丘陵地から平地に漂行する。クヌギなどドングリを好み。貯食もする。ジャージャーと鳴くが、トビ、ホトギス、ウグイスなどいろいろな鳥の声を真似る。	
オナガ	37cm 70g	カラス科
	留鳥。主として平地に分布。人家や低山の林で営巣している。群で見られることが多い。昆虫類、木の実、果実を食べる。トビやカラスなどに強い警戒性を示す。ゲーイとかギューイと聞こえる声で鳴く。	
ハシボソガラス	50cm 560g	カラス科
	留鳥。低山から平地にかけて普通に生息。2～8月にかけて繁殖活動が見られるが、山地での記録は少ない。雑食性で多彩な採食行動をとる。頭をベコベコ下げながらガアーガアーと濁った声で鳴く。	
ハシブトガラス	56cm 660g	カラス科
	留鳥。本県ではいたる所で観察されるが、山地での確実な繁殖記録はない。雑食性。おでこ嘴との境が段になっていて、首を前に突き出してカーカーと澄んだ声で鳴くのがハシボソとの相違点。	